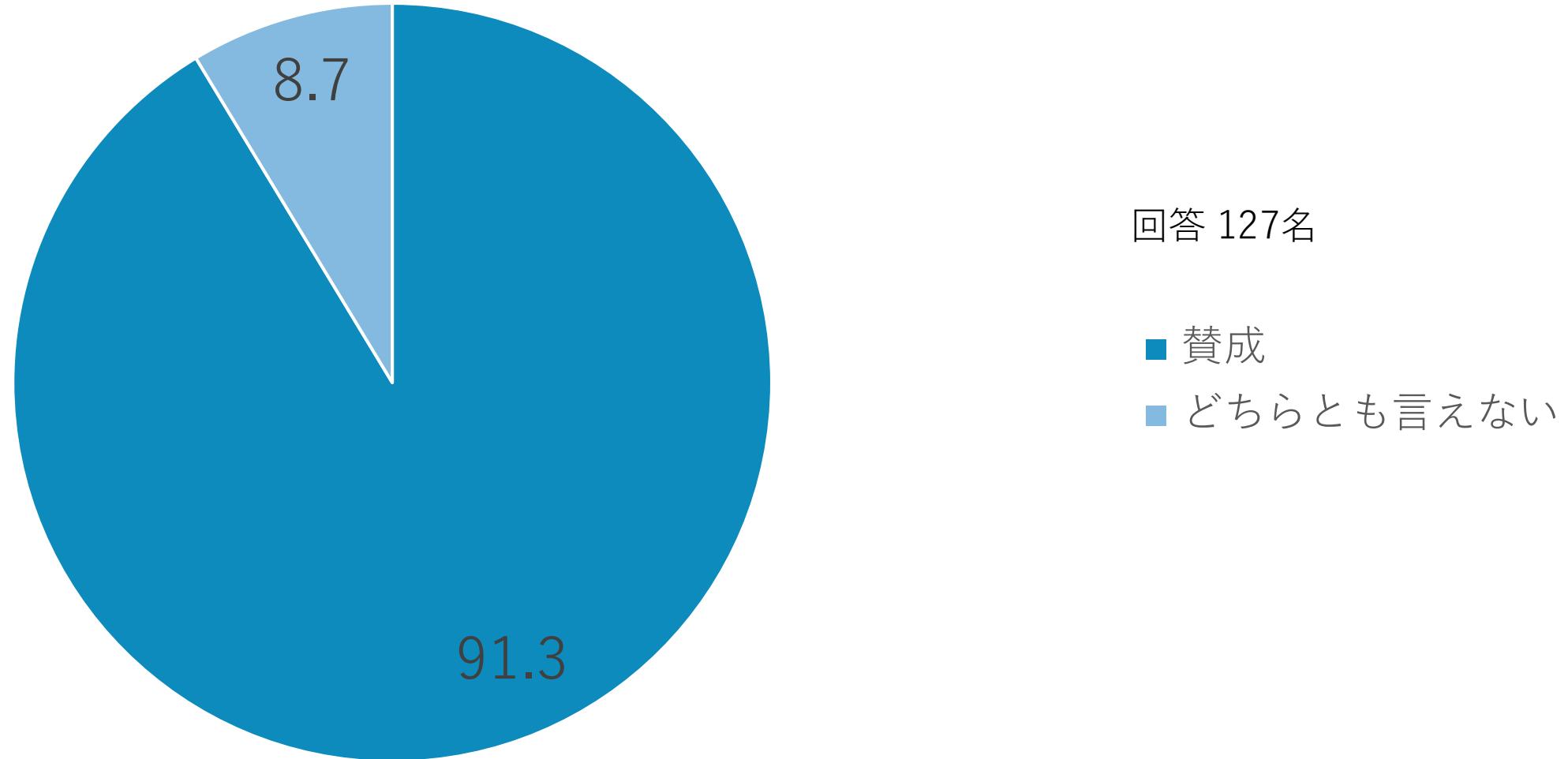


植生情報オンライン化に関する アンケート集計結果

2025. 9. 10

作成：設樂 拓人（庶務幹事）

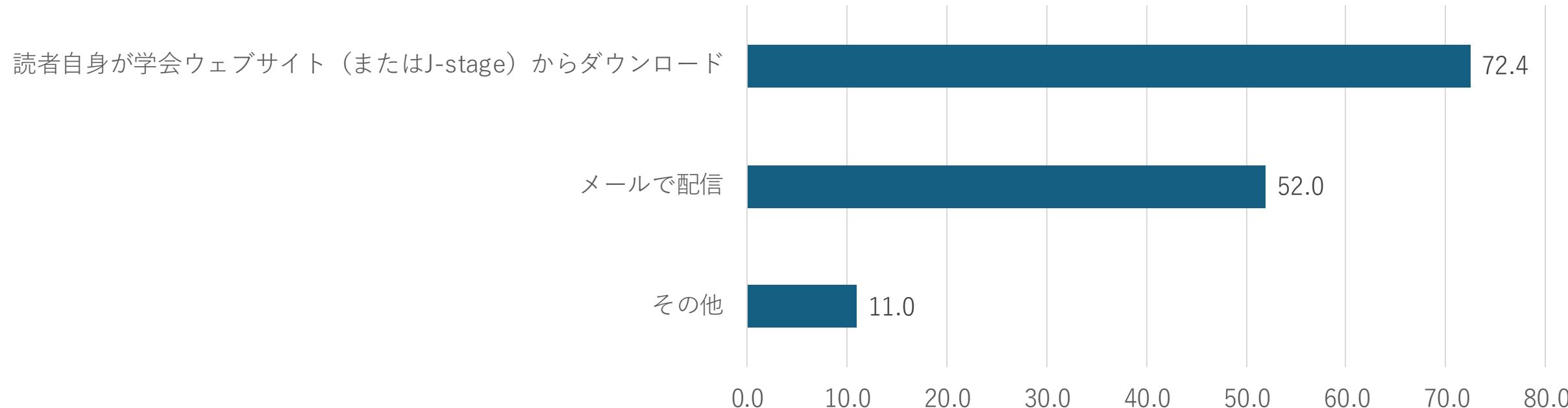
質問1 次号から冊子体を廃止し、オンライン化することについて、どのように感じますか？



質問2 オンライン版の配信方法として適當（あるいは最適）だと考えるものを一つ選択

してください（複数回答可）

回答 127名

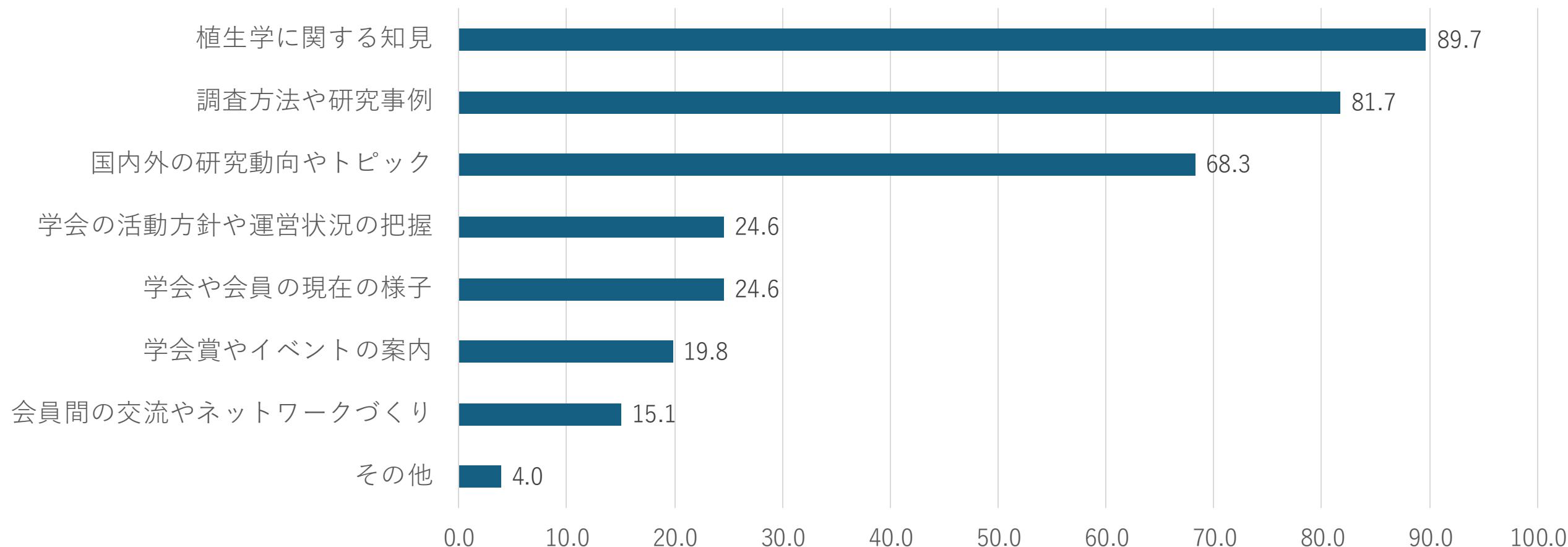


その他：通知をメールで行い、各自がDLする。メール配信はありがたいが、ご負担が大きい場合読者自身がダウンロードあるなら。発刊の案内はメールで、ダウンロードは読者各自で；ウェブサイトからダウンロードする場合でも、学会ウェブサイトに掲載された旨をメール周知していただけないとよいと考えます。発行されたことをメール配信、各自でダウンロード、添付は不可。PDFのメール配信が良いが、ページ数が多ければダウンロードにならざるを得ないだろう。発行になったことは、会員にメールでお知らせください。その後は自分でダウンロードすれば良いと思います。発行されたことをメールで通知。発行したらマーリングリストでリンク先を送って欲しい。会員のメリットを求めるのか、情報の公開を優先するのかで異なる。発刊のアナウンスは必要。メールで発行を通知して、自分でダウンロード。メールでダウンロード先をお知らせするのが良いのでは。そうすれば、読みたい人だけがダウンロードできるし、場合によってはニーズ調査も可能かと思います。メールでは最新号が出たことのみをお知らせするので良いです。

質問3 これまで自分自身にとって役立った情報について全て選んでください？

(複数回答可)

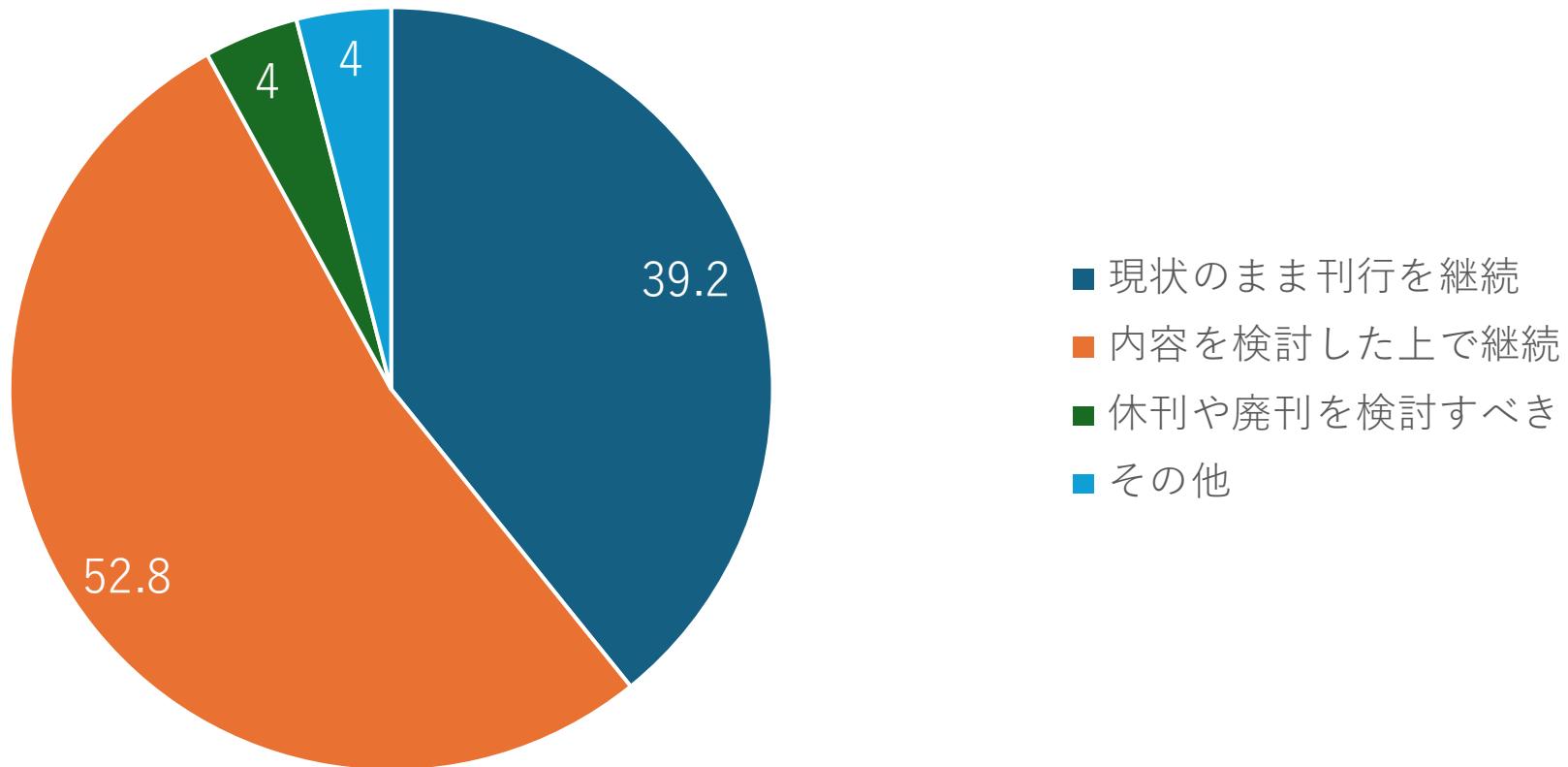
回答 126名



その他：1999年から2002年まで盛り上がった誌上討論会は、植生学への理解が深まり、またこれを読みたくて植生情報を欲しがったり入会したり、学会のすそ野を広げるのに大きく貢献したと思います。植生学に関する様々な立場からの意見や議論、学会行事のアーカイブ、学会のプロジェクト(シカ影響調査、震災津波影響調査)の報告：時代の記録や社会への発信として有意義。若手の学位論文紹介、公募や研究助成金の情報など。

質問4 今後、紙媒体・Web媒体を問わず、情報誌を継続して刊行することについて、
どのようにお考えですか。

回答 125名



その他：植生学会誌との差別化を図った上で継続、内容については自由度の高い情報誌として継続するのがよいと思います。植生学会誌の掲載する情報の幅を拡大（植生情報に学術情報として掲載されていたような内容のカテゴリを作る）したうえで、会員間のより気軽な情報交換はブログ/SNS等のweb媒体に移行、とするのもありかもしれません。刊行はありがたいですが、編集委員会のご担当の方の負担感に合わせて検討頂きたいです。発行頻度を検討してはいかがか。

質問5 ご意見・ご要望があれば自由にお書きください。

回答 25名

- ◆ 発行体制の維持については難しい部分もあるかと察しますが、率直に言ってこの情報誌がないとさびしさを感じます。学会の活気が反映されていく（学会が活気づくキッカケとなる）情報誌になるとよいと思います（漠然としていてスミマセン）。
- ◆ ・植生情報には解析方法に関する解説など、論文に引用される可能性がある有用な情報が掲載されています。そのため、オンライン化した場合にも、記事が引用できるように刊行物としての体裁（号・ページ数の明記）は維持していただきたいです。あるいは、こうした学術的な記事は植生学会誌に掲載できるよう、植生学会誌に「解説」の種別を設けることも検討してはいかがでしょうか。・現在、委員会報告等の「学会記事」は学会WEBサイトに掲載していますが、植生情報をオンライン化する場合には、これを植生情報の記事に含めるのがよいと思います。・将来的には、もう少し簡略化してニュースレター的に年2回発行とした方が、会員への情報提供という機能を強化できると思います。その場合、編集委員会が発行するのではなく、事務局の担当としたほうが効率的かもしれません。
- ◆ Web媒体のみへの切り替えは仕方ないことだと思いますが、冊子を読んできたものとしては読み逃しの不安があります。
- ◆ 査読付き論文には馴染まない、地域の植生や植生学に関する特集や、調査・解析手法の解説は、とても参考になっている。大学図書館や研究室には冊子体でも置かれた方が、学生の目に触れて、読んでもらえる機会が多いと思います。ただ、オンライン化してカラー写真・図も掲載されるとうれしいです。オンライン化した場合、メールへの添付にはファイルサイズが大きすぎると思いますので、メールでの目次の案内はあるとよいですが、リンク先からダウンロードが適当でしょう。
- ◆ 植生情報が編集委員の負担になっているのであれば、廃刊して、ニーズの高いコンテンツのみを不定期で植生学会誌に掲載することを検討しても良いと思います。
- ◆ オンライン化には賛同しますが、今ままの体裁でPDF配信を希望します。会員外の方に印刷したもの渡して植生学会をPRするためには、web版はやりにくいです。植生情報だけでなく、大会案内も旧来の体裁でPDFで配信して頂けると、出張で大会参加するときの事務手続きの時使いやすいです。
- ◆ 植生学への関心が高まるような情報発信に期待しています。
- ◆ オンライン化に賛成です。編集担当の方々のご負担が過度でなければ、規模が縮小しても刊行が続くと記録が残ってよいと思います。また可能であれば、国会図書館や大学図書館に残るとよいと思うので、ごく少部数でも物理媒体でも発行出来たらよいのではないかと思います。
- ◆ バックナンバーの記事もJstageで登録されるといいと思います。
- ◆ 植生学の手法に関する情報交換、植生学に関する意見表明や議論、また、学会や植生学者に関するアーカイブ、これらを担う媒体として重要と考えます。
- ◆ 植生情報PDF版をウェブサイトに置いて、その旨をメールで通知するのが個人的にはよいと思います。
- ◆ 編集作業や原稿収集の手間の削減が望ましい
- ◆ 二者択一である必要はない。会員個人へはウェブ配信で良い。資料として図書館等(国会図書館、大学図書館)で世代を越えて保存・継承するという面では、現状まだ紙媒体のほうが信頼性がある。そのために100部程度の紙媒体を作成する。少部数ならカラーコピー製本のようなより安価な方法もある。多少の印刷費はかかるが、送料は削減できる。紙媒体希望の個人には追加費用を徴収してもよい。検討していただきたい。

質問5 ご意見・ご要望があれば自由にお書きください。

- ◆ 植生に関する情報が世の中から減っている中、無くしてしまうには惜しく感じます。
- ◆ 学会（解散）や会報（オープン化、無料化）などはどのくらい検討されているのでしょうか。悲しいかな、植生学が時代に合わなくなってしまった（求められなくなった）ような気がします。
- ◆ オンラインを希望しない会員もいますが、そのような会員への配慮もお願いします。
- ◆ お疲れ様です。負担が大きいようであれば、植生情報の内容でも学会誌に載せられるのではと思うような記事も時々あるので、少し内容を軽くして学会誌に回して、ページ数も減らしてもいいのかもしれませんと思いました。
- ◆ 印刷版が手元に届くことを楽しみにしていて、時には職場で回覧して新人勧誘に努めていましたが、費用の配分を考えての電子化であれば賛成せざるを得ません。pdfで発行していただき、自分で印刷版を作れるようになってほしいと思います。
- ◆ 廃止はしないで欲しいと思っています。情報誌の内容を検討しつつ、学会がある限り存続を望みます。
- ◆ 情報の永続性は担保できる形でのオンライン出版が良い。web公開だけだといずれ読めなくなるため、数部だけでも印刷体を発行し、国会図書館や主要図書館などに収めるなどはした方が良い。
- ◆ 現在の学会構成員の状況はよくわかりませんが、論文に敷居の高い会員もかつては多々おりましたので、誰でも情報発信できる場はあるほうがいいのではないかと。
- ◆ 情報誌のオンライン化は賛成です。その上で、大会の案内や委員会からのお知らせなど、全会員に確実に届くのが望ましい情報は情報誌から分離し、別途紙媒体のニュースレターとして送付することを検討してよいと思います。
- ◆ 電子版にするなら、そのメリットを活かした速報や調査報告など幅広い情報を隨時発信できるような体制づくりをするのが良いです。別の編集委員会を立ち上げることもご検討ください。
- ◆ 現在の植生情報誌は、1) 学術的な内容の特集と、2) 学会案内や研修会や委員会などの活動報告が一緒になっていて中途半端な印象を受ける。pdfするのであれば、両者を分けたほうが編集もしやすいのではないか？